

現代文化学サブプログラム

専門科目(現代文化学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBBAJA1	現代文化学論文演習IA	2	1.0	1	春AB	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸, 馬籠 清子	この科目は、授業担当者が、自ら主指導教員として指導する学生に対して行う授業である。現代文化学論文演習Iは研究倫理に関する知識の確認、専門知識の深化、幅広い研究研究方法(協働研究)、論文執筆・研究成果の公開等に関するスキルを演習形式で修得することを目的としている。	対面(オンライン併用型)
OBBAJA2	現代文化学論文演習IB	2	1.0	1	秋AB	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸, 馬籠 清子	この科目は、授業担当者が、自ら主指導教員として指導する学生に対して行う授業である。現代文化学論文演習IBは、現代文化学論文演習IAで修得した専門知識をさらに深化させ、論文執筆や研究成果の公開等に関するスキルを拡大を目的とする。担当教員は博士論文の完成と研究成果の積極的な公開に向けての総合的な研究指導を実施する。	対面(オンライン併用型)
OBBAJA3	現代文化学論文演習IIA	2	1.0	2	春AB	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸, 馬籠 清子	この科目は、授業担当者が、自ら主指導教員として指導する学生に対して行う授業である。現代文化学論文演習IIAでは、学生自身の研究の進捗状況に関する報告、それを受けた教員と受講者全員による討論形式の授業を中心に実施する予定である。	対面(オンライン併用型)
OBBAJA4	現代文化学論文演習IIB	2	1.0	2	秋AB	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸, 馬籠 清子	この科目は、授業担当者が、自ら主指導教員として指導する学生に対して行う授業である。現代文化学論文演習IIAに引き続き、学生に対して専門知識をさらに深化させ、また論文の執筆や研究成果の公開等に関するスキルを修得させることを目的とする。とくに専門分野における討論技術の修得を目指す。	対面(オンライン併用型)
OBBAJA5	現代文化学論文演習IIIA	2	1.0	3	春AB	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸, 馬籠 清子	この科目は、授業担当者が、自ら主指導教員として指導する学生に対して行う授業である。資料・文献の分析、論文の添削や進捗状況に関する発表、研究テーマに関連する諸問題を扱った討論など、授業は演習形式で行われる。とくに現代文化学論文演習IIIAでは、考察した成果を論文としてまとめ上げる技術の修得をめざす。	対面(オンライン併用型)
OBBAJA6	現代文化学論文演習IIIB	2	1.0	3	秋AB	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸, 馬籠 清子	この科目は、授業担当者が、自ら主指導教員として指導する学生に対して行う授業である。現代文化学論文演習IIIAを受け、この論文演習IIIBは考察した成果を論文としてまとめ、完成させる技術の修得をめざす。	対面(オンライン併用型)
OBBAJB1	博士論文プロポーザル演習I	2	1.0	1・2	秋AB	応談	佐藤 嘉幸, 濱田 真, 山口 恵里子, 馬籠 清子, 廣瀬 浩司, 対馬 美千子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、博士論文をはじめ専門的な学術論文を完成させるために必要な明確な目的意識の涵養と研究計画書の執筆等に関するスキルの修得を目的としたものである。受講生には自らの研究の目的や方法、論文の章立て、論文の完成・提出までのスケジュールを文章にまとめて発表する。演習Iでは研究目的の明確化とそれにふさわしい方法論の確立を主題として、プレゼンテーションの演習をする。	西暦偶数年度開講。 02DHA11と同一。 対面(オンライン併用型)
OBBAJB2	博士論文プロポーザル演習II	2	1.0	1・2				この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、博士論文をはじめ専門的な学術論文を完成させるために必要な明確な目的意識の涵養と研究計画書の執筆等に関するスキルの修得を目的とする。演習IIでは、一次資料の収集・分析、先行研究への批判的分析を主題として、プレゼンテーションの演習をする。	西暦奇数年度開講。 02DHA13と同一。 対面(オンライン併用型)
OBBAJC1	海外研究・教育実践演習I	2	2.0	1 - 3	春AB	応談	馬籠 清子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、海外において修得した自らの研究成果や研修経験を発表することを通して、修得した学術的な知見やスキルを他者に伝える技術を磨くことを目的としている。履修条件として、本学の協定校以外の海外の大学に留学し帰国した学生、また海外の研究機関などにおける研修を受けて帰国した学生であることが求められている。また履修登録は留学あるいは研修が終了し、帰国してから原則として1年以内に行う。この授業では研修に関する口頭発表を行い、研究・研修報告書の作成が求められる。	02DHA21と同一。 オンライン(対面併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBBAJC2	海外研究・教育実践演習II	2	2.0	1 - 3	秋AB	応談	阿部 幸大	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、協定校であるカナダのプリンス・エドワード島大学(UPEI)において修得した自らの研究成果や研修経験を発表することを通して、修得した学術的な知見やスキルを他者に伝える技術を磨くことを目的としている。UPEIの夏期短期研修「英語で授業ができる教員養成のための海外研修プログラム」を受講し、この科目を履修登録した学生は、帰国報告会での英語による口頭発表を実施する。	02DHA23と同一。 対面
OBBAJD1	学術成果公開演習 IA	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 馬籠 清子, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象とし、学生が主体的に独創的な研究プロジェクトを立て、実践し、その成果を国内外の学会で専門家に向けて発信する力の養成を目的とする。指導教員は研究プロジェクトに対する助言、学問的誠実性の重要性や渡航安全等の事前指導を行い、学会終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OBBAJD2	学術成果公開演習 IB	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談	対馬 美千子, 濱田 真, 廣瀬 浩司, 山口 恵里子, 佐藤 嘉幸, 馬籠 清子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象とし、学生が主体的に独創的な研究プロジェクトを立て、実践し、その成果を国内外の学会で専門家に向けて発信する力の養成を目的とする。指導教員は研究プロジェクトに対する助言、学問的誠実性の重要性や渡航安全等の事前指導を行い、学会終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OBBAJD3	学術成果公開演習 IIA	2	1.0	1 - 3				この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象とし、学生が主体的に独創的な研究プロジェクトを立て、実践し、その成果を国内外の学会で専門家に向けて発信する力の養成を目的とする。指導教員は研究プロジェクトに対する助言、学問的誠実性の重要性や渡航安全等の事前指導を行い、学会終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OBBAJD4	学術成果公開演習 IIB	2	1.0	1 - 3				この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象とし、学生が主体的に独創的な研究プロジェクトを立て、実践し、その成果を国内外の学会で専門家に向けて発信する力の養成を目的とする。指導教員は研究プロジェクトに対する助言、学問的誠実性の重要性や渡航安全等の事前指導を行い、学会終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)